

令和7年第2回定例議会一般質問文

樹林化した農地や荒廃した山林のバイオマス燃料としての活用について 酒井 周

今回は樹林化した農地や荒廃した山林の樹木の炭焼きやバイオマス燃料としての利用に関して質問致します。

地球温暖化の危険性が危惧される中、世界では再生可能エネルギーの利用拡大が広がっています。2015年の世界全体のエネルギー消費量のうち78.4%が化石燃料、核燃料が2.3%で自然エネルギーによるものは19.3%でした。その中でバイオマス燃料によるものは14.1%を占めており太陽光や風力、水力よりも大きな割合となっており、もっとも使われている自然エネルギーです。

大島町で策定した「大島町地球温暖化対策実行計画」の中でも化石燃料の割合を減らし、二酸化炭素排出実質0にするカーボンニュートラルが謳われています。

木質バイオマス燃料は燃焼の際二酸化炭素を排出しますがその後林が育つことにより二酸化炭素を吸収するのでカーボンニュートラルの中では重要な位置を占めています。

現在、大島町では樹林化した農地や放置された山林に多くの木材資源があり、バイオマス燃料の利用拡大の可能性を秘めています。

かつての大島では炭焼きが盛んで林を開墾し農地として利用して木は炭焼きで利用し、その後また林として育てるという循環型のエネルギー社会を実践していたのですが近年はほとんどそのような活動が行われなくなっていました。

私は2023年の第4回定例議会で樹林化した農地を含む遊休農地の解消。という内容で一般質問をし、この中で樹林化した農地の樹木を炭焼きなどに活用してもらうことで農地を再生することを提案させていただきました。

また、2024年の第1回定例議会で「大島町森林整備基本計画書の具体的な実行計画について」という表題で質問させていただき、大島では使われることが無く放置されている杉などの植林が広大な面積であり、経済活動上も防災上の観点からも適正に切り出して次世代の植林、間伐などの管理をするべきと提案させていただきました。

私といたしましては地域おこし協力隊などで炭焼きを事業化する人を呼び込み農地や山林の管理をしてもらいたい。などと思っていましたが、この時点では自分でも夢物語だと感じていました。

しかし、事態は急展開し、島外から移住してきた方が大島でツバキを原料とした炭焼きを行う事業を計画し、大きな炭焼き窯を建設。この春より炭焼き窯の運用がスタートしました。

この島外から来た事業者以外でも島内で炭焼き窯を立ち上げる動きがあるようです。

これとは別に大島町として推進しているホテル建設において、温泉の加温のために木質バイオマス燃料を使いたいとの打診があると伺っており、今まで滞っていた森林資源を活用する動きが広がっています。

森林資源がバイオマス燃料として利用されることにより樹林化した農地が開墾しやすく

なり、放置されて荒廃している山林や植林地が適正管理される可能性が出てきました。

また、荒廃した樹林が減少すれば大島の農業にとって極めて大きな問題であるタイワンザルとキョンの生息エリアを制限し、生活圏での個体数を削減させる効果が期待できます。

しかしながら現状で自分の持ち物ではない個人所有や財産区 of 山林や樹林化した遊休農地で木材を切り出すことは地権者との交渉や利益配分など、個人、事業者だけでは困難です。

私は炭焼きや温泉でのバイオマス燃料の利用を荒廃した樹林の解消の好機ととらえ、これらの事業を後押しするべきだと思います。そのために産業課や農業委員会が仲介し、事業者と協議、協力しながら地権者間で適正に交渉を行うための制度作りが必要と考えます。

産業課長に伺います。炭焼き事業やホテルでのバイオマス燃料の利用について事業者から具体的な計画内容や要望があればお聞かせください。

そのうえで町長に伺います。炭焼きや温泉でのバイオマス燃料利用による森林資源の活用を、温暖化対策や森林整備の計画に生かすための政策ビジョンがあればお聞かせください。

産業課長答弁

酒井議員の質問「炭焼き事業やホテルでのバイオマス燃料の利用について事業者から具体的な計画内容や、要望があればお聞かせ下さい。」についてお答えいたします。

酒井議員のおっしゃる炭焼きの事業者から 1 件、ホテルでのバイオマス燃料の利用について事業者から 1 件それぞれ相談を受けています。

まず椿炭の事業者からは令和 7 年 2 月 26 日、事業者としての活動報告をいただき、その中で事業を行っていくうえでの課題を二つ「島内の森林資源の分布がわからないこと」「森林（地目：山林）の所有者がわからないこと」を挙げられておりました。産業課には農地の所在、地積、地番、所有者及び住所等のデータはありますが、そこが「森林化しているか否か」の一元的なデータはなく、年 1 回行われる農業委員会による農地利用状況調査の結果が反映されているわけではございません。仮に所有者氏名及び住所がわかってもこれらは取り扱い注意となりますので、安易なご紹介は慎まなければならないと考えており、その旨私からお伝えしております。

もうひとつ、ホテルでのバイオマス燃料の利用について事業者からは昨年 8 月 22 日に、ご相談を受けております。主な内容として「ホテル誘致にあたって木質バイオマスガスを利用、発電し、施設の電力を賄いたい木材チップの必要な量を通年確保できるか？」というものでした。事業者としては木材チップの年間必要量を約 1,920 t と見積もっており、産業課としては島内で林業を営む事業者がいないことや、道路の支障木、公共工事での伐採木を利用するにしても到底バイオマス燃料としての年間必要量を賄うことができないであろう

と回答しています。

この事業者は、自社で山林から樹木を伐採しチップを製造することを想定しておらず、島内で事業を行っている林業事業者がいれば連携したい考えを持っていたようです。

島内には伐採木処理事業者はありますが、利用する木材チップの必要量を満たすには、ここから木材チップを購入する以外なく、購入単価等事業展開に少なからず影響があること。そもそもクリーンエネルギーの利用とコスト削減が目的であるバイオマス燃料の利用計画ですので、計画に大きな影響を及ぼしたのでは、と考えております。

炭焼き事業者、ホテルでのバイオマス燃料発電事業者ともに産業課への直接のご相談はこれ以降、ございません。

産業課からは以上です。

町長答弁

議員ご指摘のように、荒廃した森林資源の活用は、過去より課題となっています。大島町でも、最近移住された若い人が、椿炭の生産を始めました。私も窯の火入れ式にご招待を受け参加しました。かつては、大島において椿炭の生産は盛んで、私も親戚の窯で手伝いをしたことがあります。

バイオマスボイラーによる熱利用は、化石燃料に比べ高めのイニシャルコストを、安価なバイオマス燃料で投資回収するビジネスモデルとしても注目されているようです。バイオマスボイラーは、燃料の投入頻度がおおくなること、

灰の処理が必要となるなど、化石燃料とは異なる運用面での留意点もあるようです。国も令和6年度補正予算で、省エネ・非化石転換補助金の公募も開始したようですが、大島の地形で、チップ化や樹木の切り出し、働き手等多くの課題もあると思います。

私も、先日、ある事業者の方々とお話しをする機会がございました。現時点では、町としてバイオマス燃料事業を推進する政策はもっていませんが、民間事業者の動向や他自治体の状況を注視していきます。

席上質問

まず温泉のエネルギー利用に関しては、私はそのまま温泉を沸かすものだと思っておりましたのでチップをガス化して使うことは考えておりませんでした。バイオマス燃料の中ではあることだと思います。

まず炭焼きの方から出た地権者の問題ですが、わたくしもよく農地を使ってくれ。と言われることがよくありまして、放置され林になった農地の固定資産税の取り方が変わった際に皆様が大変困惑し、農地を相続したが自分は農業をやらないのでどうにかしたいと考えており、取扱注意という言葉がありましたが呼びかければ放置された農地を使ってほしいという声が多く出ると思われます。

また、温泉ホテルのエネルギー利用に関して木を切り出す人がいない、林業者がいないということですがその林業を再興するチャンスだと思います。公共事業が厳しい中で木を切って運び出すということを事業化できるのではないかと思います。土砂災害の時には土木関係の会社が木を切って運び出すのに大変活躍してくれており、そういった能力が大変高いことも示されております。実際に大島の中でチップを作る会社はありますしそういった流れを作ることが必要だと思います。

また、林業を再興することができれば温泉ホテルの中にログハウスを作るなど、バイオマス燃料ではない本来の森林資源の利用にも広げて行けるなど、積極的な政策を行ってほしいと思いますが町長いかがでしょうか？

町長

色々な企業の在り方があると思うが町がどこまで関与するのかという問題もある。先ほど産業長も答弁された通り土地がだれのものなのか、どのように使うかということに関しては制限がある。将来的にはあり得るかもしれないが現時点で町がどこまで関与できるかということとは言えない。

席上

行政のそういった事業への関与に関してですが全国で行政が荒廃した山林をバイオマス燃料で解決するという事例は成功例失敗例ありますが様々なものがあります。昨年度末神奈川県松田町というところの福祉施設を見学させていただいたのですが、そちらでは切り出した薪をそのまま燃やすといったことが行われています。また、東京都内の檜原村では村が村営のキャンプ場も含めて非常に大きなグループで協力して温泉でバイオマス燃料を利用しているそうです。

大島町でも町全体で横断的に。縦割りではなく横割りで、税務課の税収の問題なんかもありますし町全体でやってゆこうというようなビジョンを示してほしい。

町長

バイオマス燃料の観光への利用に関しては政策としてはありませんが提案していただいたので検討したい

席上

東海汽船の中で流れるジオパークのPRビデオの椿ルネサンスというようなことにも関わってきます。ぜひ大島全体で全国でも循環型エネルギーの先進地にもなる話ですので是非ご検討していただきたいと思います。